

原水協活動 FAX News

発行: 原水爆禁止日本協議会

電話 03 5842 6031 FAX 03 5842 6033

URL <http://www10.plala.or.jp/antiatom/> Eメール antiatom55@hotmail.com 2007年12月5日 No.18

12・4
行動

折り鶴で厚労省を完全包囲!

日本原水協も参加する原爆症認定集団訴訟全国支援ネットワークは12月4日、日本被団協、全国弁護団連絡会議と協力して「厚生労働省を囲む折り鶴行動」、「集団訴訟に勝利し核のない世界を求めるタベ」をひらきました。

正午の原爆症認定行政の抜本的改革を求める「厚生労働省を囲む折り鶴行動」には、全国から続々と参加者が集まり、原告や弁護士、支援者の代表がマイクを握りました。

行動の最後には「核兵器なくそう・世界青年のつどい」準備委員会が呼びかけた「25万羽おりづるプロジェクト」に応えて寄せられた折り鶴を掲げて厚労省を取り囲みました。



折り鶴を掲げてシュプレヒコールをする参加者

上に積み上げられた緊急署名



午後から衆議院第1議員会館で開かれた「検討会に物申す院内集会」には、会場の定員を大幅に超える300人が参加、600人が参加した九段集会は、20万羽を

超える折り鶴で装飾された舞台に、約30万人分の「原爆症認定行政の抜本改善を求める緊急署名」が積み上げられました。

署名は、年明けに予定されている長崎地裁判決に向け、すべての被爆者の救済を要求して今後も引き続き取り組みます。

大阪 緊急署名目標達成! 引き続き取り組み強める

大阪原水協は12月5日、2万筆の緊急署名目標を超過達成しました。玉垣斉事務局長は、「いずみ市民生協が職員中心に呼びかけて大阪の全署名数の半分1万2千530筆を届けてくれた」と話します。また、寝屋川原爆被害者の会は2869筆を集めて12・4行動に山川副会長を送りました。厚労省前でもマイクを握った近畿集団訴訟原告の木村民子さんは個人で500筆、田中洋子副理事長は個人で1千筆を集めています。

「6・9」行動、援護連帯2000万円募金などと合わせ、引き続き取り組みを強めましょう。

○八年版からちひろカレンダー普及を担当することになった栃木県原水協では、事務局長の福田台さんが「栃木県原水協ニュース」六十号の読書感想コーナーで「ちひろに秘められたもの」という本を取り上げています。感想文の中で福田さんは「チラシを作成するという実務的な目的のために、もう一度『いわさきちひろ』を理解しなおさなければ... (中略) いわば、若干『不純な』目的で読み始めたのです」から始まり、読後「ちひろカレンダーを普及することは、やさしさと平和のいびきを広めることであり、国民的画家のちひろのカレンダーはどんな人にもすすめることのできるものである」という結論に達します。そして、「勇躍して『ちひろカレンダーの普及』にまい進している」と締め括っています。

ちひろカレンダー
前年比5%・10%増を堅持しよう

福田 台 (栃木県原水協事務局長)